

気づくことから未来がはじまる。



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)

あいち・なごや 開催計画



生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

ご挨拶

2010年10月に、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されます。この会議は、世界各国の政府代表者など国内外から数千名規模の参加者が集まり、「生物多様性」をテーマに、各国が持つ課題やその解決の方法、世界的な枠組みづくり等について討議するもので、私たちそして未来の世代に対して、大変重要な意義を持つ会議です。

開催地となる愛知・名古屋においても、この大切な会議を地元としてしっかりと支援をするため、行政機関、経済界、NGO/NPO等が集まり、昨年9月に地元支援実行委員会を設立し、日本政府との調整や地元としてのさまざまな活動を進めております。この開催計画は、関係者と連携・協力のもとにCOP10の開催に向けた地元の取組について、県民・市民の方々にご理解いただくためにとりまとめたものです。

まずは、安心・安全、快適、円滑な会議開催を支援するため、警備や救護等の地元体制の構築、ボランティアによる会議運営への協力、公式歓迎行事やエクスカージョンなどを行い、COP10が愛知・名古屋で開催されたことに十分満足いただけるような取組を進めてまいります。

また、COP10を機会に、私たち一人ひとりが生物多様性の保全やその持続可能な利用、さらに自然や環境問題を考えることができるように、多くの県民・市民が参加できる一般向けのイベントを開催するとともに、企業やNGO/NPOなど多様な主体が参加できる会議などを支援してまいります。

この地域には、「自然の叡智」をテーマに国内外から2,200万人を超える方々をお迎えした愛・地球博の経験や、世界有数のモノづくりの地域として、優れた環境技術を発信できる潜在力もございます。2010年10月の開催まで、あと1年6ヶ月あまりとなりましたが、支援実行委員会は、このような大きな力を結集し、地域の魅力を十分活用しながら、皆様と一体となってCOP10成功に向けて取り組んでまいります。

2009年3月26日

生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会 会長
愛知県知事
神田 真秋



CONTENTS	ご挨拶	1	地域からの行動	13
	世界が注目するCOP10を支援し、 自然と共生する地域づくりを進めます	3	連携・交流	17
	私たちがCOP10で、すべきこと	5	2010年展開イメージ	19
	会議支援	7	多様な主体の参加・支援	21
	愛知・名古屋の魅力発信	11	COP10開催に向けたロードマップ	23
			組織概要	25



生物の多様性とは

この地球上には、約175万種、未知のものも含めると3,000万種ともいわれる生き物が暮らしています。すべての生き物は、自然林や里山林・人工林などの森林、湿原、河川、サンゴ礁など、さまざまな環境の中に適応し生息しています。また、同じ種であっても個体間、また生息する地域によって体の形や行動などの特徴に少しずつ違いがあります。生物の多様性とは、このように自然が創り出した、多様な生き物の世界のことを表す言葉であり、私たち人類は、この生物多様性がもたらす恵みなくしては生存することすらできないのです。



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)とは

「生物の多様性に関する条約(生物多様性条約)」は、「地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること」、「生物資源を持続可能であるように利用すること」、「遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること」を目的としており、この締約国会議では、締約国がおおむね2年ごとに集まり、各種の国際的な枠組みを議論しています。2010年には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知・名古屋で開催されます。

- 主催：生物多様性条約事務局(カナダ・モントリオール)
- ホスト国：日本
- 参加規模：約7,000名(想定)(191カ国政府代表・国連機関、NGOなど)
- 開催期間：2010年10月11日(月)～10月29日(金)
 - カルタヘナ議定書第5回締約国会合(COP-MOP5)：10月11日(月)～10月15日(金)
 - 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)：10月18日(月)～10月29日(金)
 - 閣僚級会合：10月27日(水)～10月29日(金)
- 会議会場：名古屋国際会議場(予定)
 - (関連事業会場：白鳥地区、愛・地球博記念公園、栄地区など(予定))

COP10スケジュール





世界が注目するCOP10を支援し、 自然と共生する地域づくりを目指します。

多様な生き物との共生を目指す、いのちの条約。

宇宙に浮かぶ私たちの故郷、地球。ここには、40億年の歴史を経てさまざまな環境に適応して進化してきた生き物が暮らしています。それぞれに個性があり、それぞれが目には見えなくても精緻で複雑な関係でつながっています。私たちの地球の環境は、無数の生き物とその環境が織りなすネットワークによって長い年月をかけて創られてきたものです。

そして、私たち人間の暮らしは、この生き物たちからの恵みを利用することによって成り立っています。しかし今、1年間に約4万種というスピードで、生き物たちが絶滅しているといわれています。

生物多様性条約は、この地球規模の課題の解決に向けた重要な国際的な枠組であり、日本を含む191の国と地域(2009年2月末現在)が条約を締結しています。2010年は、「2010年目標(締約国は、現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる)」の検証とその後の枠組づくりを行う時期であると同時に、国連が定めた「国際生物多様性年」でもあります。

こうした重要な課題を担う生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が、愛知・名古屋で開催されます。私たちは、世界中から大きな注目を集めているこの国際会議を、多くの主体の皆様とともに総参加で支援し、ぜひ成功に導きたいと考えています。



愛知・名古屋だからできること。

肥沃な濃尾平野とそれを貫き伊勢湾へと流れ込む木曾三川や庄内川。三河から連なる自然ゆたかな中部山岳の山々。愛知・名古屋を中心とするこの地域には、多様な自然と独特の生物多様性があります。人々は時代を超えて、ゆたかな自然を愛し、深く関わり、つながりあって生活してきました。世界に誇るこの地方のモノづくりや伝統文化も、ゆたかな自然と多様な生き物の恵みがあればこそ、育まれてきたものでした。

COP10は、人と自然との関わりを私たちが真剣に考える契機となります。自然との共生に向けた地域モデルを世界に発信するチャンスでもあります。私たちは「愛・地球博」で市民参加や国際交流など多くのことを学びました。COP10を契機に、私たち人間の豊かな暮らしと生き物の関わりを見つめ直し、多様な生き物と共生する社会を、次世代の子どもたちに引き継いでいきたいと願っています。

私たちは、COP10を日本・愛知・名古屋で開催することで、自然と共生する社会のあり方を世界の人々と議論し、その成果を世界に向けて発信できることを光栄に思います。



私たちがCOP10で、すべきこと。

私たち愛知・名古屋は、COP10の開催を万全な態勢で支援します。
また、次世代に引き継ぐべき自然と共生する地域づくりを進めていきます。
そして、国内外に向けてこの地域の魅力を発信し、多様な主体との連携・交流を促進します。

P7~10

1 会議支援

条約事務局・国の会議運営を安心・安全、快適で円滑なものとするために、地域をあげて会議の運営を支援し、会議を成功へと導きます。

● 安全・安心の確保

警備協力、衛生管理、災害対策、救急対応

● 快適なサービスの提供

輸送、交通案内、サービス機能、バリアフリー

● 円滑な運営

宿泊、報道対応、ボランティア

● 環境と食への配慮

調達、資源の有効活用、輸送、食への配慮



COP10の
万全の態勢で国際

伝えたい愛知・名古屋、そして日本の魅力を、
国内外に広く発信します。

私た
後
役

さまざまな主
交流を深め、

P11~12

2 愛知・名古屋の魅力発信

COP10を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けて積極的に発信していきます。

● おもてなし

エクスカーショ、公式歓迎行事、地元情報の提供、ボランティア

● 環境技術の情報発信

メッセナゴヤ2010

● 国内外のメディアを通じた広報

プレスツアー、メディアに向けた地元の情報提供



県民・市民、NGO/NPO、大学・研



P13~16

3 地域からの行動

COP10を契機に、生物多様性に配慮し、自然と共生する地域づくりを促進するためのムーブメントを創出していきます。

COP10開催に向けたムーブメントの創出

- 普及・啓発プロジェクトの推進
「国際生物多様性の日」・開催1年前等記念行事、体験型企画

COP10開催時の取組

- 国際会議の開催・支援
生物多様性国際自治体会議、子ども環境会議、世界ユース環境会議
- 多様な主体の取組への支援・協力
企業、学術、NGO/NPO

広域的な連携

- パートナーシップ事業の展開

P17~18

4 連携・交流

県民・市民、NGO/NPO、大学・研究機関、企業、会議参加者など多様な主体が互いに連携し、交流する機会を創出し、情報発信と交流を支援するとともに、生物多様性ムーブメントの広がりを目指します。

- 発表・交流の機会の創出
白鳥地区、愛・地球博記念公園、栄地区



成功に向け、
会議を支援します。

ちの
割

自然と共生する地域づくりに向け、
地域からの行動を展開します。

体と連携し、
広げます。

究機関、企業、他自治体の参加と連携



COP10の成功に向け、 万全の態勢で国際会議を支援します。

2010年は、生物多様性にとって節目となる重要な年。2010年10月に開催されるCOP10は、この地域にとって初めてとなる大型国際環境会議で、国内外から熱い注目を集める大変重要な会議となります。生物多様性条約事務局・国の会議運営を安心・安全、快適で円滑なものとするために、地域をあげて会議の運営を支援し、成功へと導きます。

安心・安全の確保

警備協力、衛生管理、災害対策、救急対応など、開催地として、会議参加者の来日・来名時から会議終了時まで、安心・安全の確保に万全を期します。

●警備協力

COP10会場内における国連や政府の警備と連携し、会場周辺など主要な区域における来場者誘導や巡回など、万全な警備体制を構築します。

●衛生管理

会議場と連携し、会場内の空気や水質の環境状況を把握するなど衛生管理を行います。

また、会場内での食の提供にあたっては関係機関と連携し、その安全を確保します。

●災害対策

消防署、保健所等関係機関と連携し、昼間及び休日夜間における連絡体制を明確にするなど火災、地震、感染症の発生等緊急時に対応できる体制を構築します。

●救急対応

医療機関はじめ関係機関と連携し、会場内における急病者に対する応急措置及び救急搬送ができる救護体制を構築します。



救護施設



COP10が開催される名古屋国際会議場

快適なサービスの提供

会議参加者が会議に専念、集中できるように、快適なサービスを提供します。

●輸 送

市街地、会議場、愛・地球博記念公園、ポートメッセなごやなどの主な会場・施設と宿泊施設間をCOP10登録者が地下鉄等公共交通機関を利用して移動できるしきみを構築します。

●交通案内

日本語や、愛知・名古屋の地理に不案内な国内外の参加者が快適に滞在、移動できるよう、会場の最寄駅等に多言語表示の案内板を設置するとともに、語学ボランティアによる交通案内を行います。

●サービス機能

インフォメーションデスクや無線LANを利用できるサイバーカフェや郵便局等各種サービス施設を設置し、COP10会議場内の参加者の利便を図ります。なお、ビジネスセンターの設置についても検討していきます。

●バリアフリー

車椅子等の利用にも対応するなど、ソフト、ハード両面から参加者に配慮した会場づくりを心がけます。



本体会議場



サイバーカフェ

円滑な運営

国内外の会議参加者、報道関係者など、すべての方が円滑な運営を実感できるような体制で臨みます。

● 宿泊

宿泊施設情報を提供するなど、宿泊希望者に対する利便を図ります。

● 報道対応

会議の動きなどCOP10に関わるさまざまな情報を、報道機関にニュースリリースできる体制を整えます。

● ボランティア

インフォメーションデスク等での案内、会議関連情報の提供など、円滑な運営を支援します。



インフォメーションデスク



プレスセンター



ボランティアによる資料配布



駅でのヘルプデスク

環境と食への配慮

この地域で取り組んでいるきめ細かいゴミ分別の会場内での実施や、地産地消による食の提供等、会議運営にかかる環境負荷の低減に努めます。また多様な文化・宗教等に配慮して食の提供をします。

● 調 達

各種行事等で使用する電力については、太陽光発電等の自然エネルギーから得られるグリーン電力を活用します。また、会議で使用する物品等の調達にあたっては、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスの購入に努めます。

● 資源の有効活用

会議場及びイベント会場において、愛・地球博で実施したゴミの多分別など3R(リデュース=ゴミの発生抑制、リユース=再利用、リサイクル=再資源化)を徹底し、資源の有効活用に努めます。

● 輸 送

関係者の移動のために使用される車両について、ハイブリッド車、燃料電池車等の環境にやさしい車両を活用します。

● 食への配慮

宗教や食文化に配慮するとともに、地産地消・旬菜旬食といった、地域の特性とフードマイレージ*1を意識した食の提供やフェアトレード*2製品の使用に努めます。



ゴミ分別の様子



「愛・地球博」での太陽光発電



国際会議で使用されたエコカー

*1フードマイレージ:食料の量及び輸送距離を総合的・定量的に把握するためにつくられた指標。食料の生産地から消費地までの距離を短くすることで、輸送に伴うエネルギーを減少させ、環境への負荷を軽減しようとするもの

*2フェアトレード:発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指そうとするもの



COP10

2 愛知・名古屋の魅力発信

伝えたい愛知・名古屋、そして日本の魅力を、国内外に広く発信します。

私たち愛知・名古屋には、多様ないのちを育むゆたかな自然と個性的な歴史・文化、モノづくりの伝統、そして自然と共生する知恵や誇るべき環境技術があります。COP10を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けて積極的に発信していきます。

おもてなし

COP10会期中は、国内外から多くのお客様を迎えます。県民・市民、NGO/NPOの方々とも協力して、会議参加者へ心をこめたおもてなしをすることで、愛知・名古屋、そして日本の魅力を体験・体感していただきます。



藤前干潟 (提供: 森井豊久氏)



名古屋城

● エクスカーション(会議参加者向け地域紹介ツアー)

愛知・名古屋及び中部圏の優れた自然、歴史・伝統、文化、産業技術などを体験・体感していただくエクスカーションを訪問先の関係機関等と連携して実施します。

● 公式歓迎行事

COP10の開催期間中に公式歓迎行事を開催し、会議参加者に歓迎の意を表すとともに、地元の食材や文化など、さまざまな地域の魅力を紹介・提供します。

● 地元情報の提供

近隣の文化施設や飲食施設の情報など、地元のさまざまな情報を提供し、会議参加者のオフタイムの食事や観光等に役立てていただける情報ハンドブックなどを作成・配布します。

● ボランティア

語学ボランティア及び運営ボランティアの方々のホスピタリティーあふれる対応により、会議参加者に対する観光案内、ショッピング・飲食の案内などの地域の魅力紹介やイベント会場でのあたたかいおもてなし等を行います。

ボランティアによる
インフォメーションデスク



四谷千枚田

環境技術の情報発信

モノづくりの伝統に培われた先端の環境技術を情報発信します。

●メッセナゴヤ2010

企業・団体の優れた環境技術や研究成果等の情報発信、企業・団体間の異業種交流等をする場です。2010年はCOP10にあわせて10月に開催されます。



メッセナゴヤ2010

国内外のメディアを通じた広報

国内外のメディアに、さまざまな機会を捉えてこの地域の魅力を取材していただけるよう、メディアへの対応を積極的に行い、一層効果的にこの地域の魅力を発信します。

●プレスツアー

各メディアがCOP10期間中に効率的、効果的に取材や報道を行うことができるよう、会場等を事前視察することができるプレスツアーを開催します。

●メディアに向けた地元の情報提供

国内外から集まるメディアに対し、愛知・名古屋の自然や産業、特産物、食文化等地域の特性や魅力について幅広い情報提供を行います。



情報発信ブース



自然と共生する地域づくりに向け、 地域からの行動を展開します。

生物多様性に関わる取組や活動は、COP10が開催される2010年で終わるものではありません。COP10を契機に、2010年以降も世界に向けて発信できるような自然と共生する地域づくりが、愛知・名古屋に根付き、拡大するよう、地域からの行動を進めていきます。

COP10開催に向けたムーブメントの創出（2009年4月～2010年9月）

普及・啓発プロジェクトの推進

県民・市民一人ひとりが、身近な自然環境や他の地域とのつながりに「気づき」「知り、学ぶ」というステップアップを促すため、より多くの県民・市民を巻き込んでいくプロジェクトを展開します。

1 「自然と共生する地域づくり」や「生物資源の持続可能な利用」といったテーマのもと、テーマに沿った取組やわかりやすく楽しみながら体験することができる企画を展開します。また、プロジェクトの成果は、COP10開催までの節目となる記念行事やCOP10会期中の発表・交流の機会などで発表していきます。

● 絵画・写真コンテスト

より多くの県民・市民の方々が、身近な自然や生き物を通して生物多様性に気づききっかけづくりを提供します。

● 自然観察会

この地域で自然観察に取り組む団体と連携し、県内各地で一斉に自然観察会を開催し、県民・市民の方々に、身近な自然や生き物を通して生物多様性に気づく機会を提供します。



植樹体験



自然観察会

● 参加ふれあい～木づかいでCOP10～

間伐材を使ったモノづくりを通して里山の保全を学び、親子を中心に「生物資源の持続可能な利用」について知り、学び、体験する機会を提供します。

● 講演会

生物多様性と私たちの暮らしとのつながりや、身近な自然の大切さを知り、学ぶ機会とするため、生物多様性の重要性をさまざまな視点から伝える講演会を開催します。



生物多様性キックオフシンポジウム

2 5月22日の国際生物多様性の日・COP10開催1年前等という節目をきっかけに、より多くの方々に身のまわりの生物多様性に気づき、興味・関心を持っていただくために、生物多様性保全への参画を呼びかける記念行事を展開します。

●2009年「国際生物多様性の日」記念行事

「国際生物多様性の日」という節目をきっかけに、生物多様性への関心を高め、身近にある自然や生き物を見つめなおし、大切に気付いてもらう場とします。また、すでに生物多様性保全等の取組を行っている団体の活動を紹介し、それぞれの活動への参画を呼びかけていきます。

時期 2009年5月22日～24日

場所 ①栄オアシス21(5月22日～24日) ②中電ホール(5月22日)

内容 ①トークショー、ステージイベント、ブース展示等 ②生物多様性シンポジウム

パートナーシップ事業 「いのちを支えるもりづくりキックオフイベント」(愛・地球博記念公園) 等

●開催1年前記念行事

COP10成功への機運を盛り上げ、各主体の行動を喚起するため、2会場で開催します。

時期 2009年10月

場所 ①名古屋国際会議場(10月12日)

②愛・地球博記念公園(10月10,11日)

内容 ①1年前セレモニー、基調講演、分科会(学術、企業、NGO/NPO)

②生物多様性に関する活動団体等の発表ステージ、普及事業の成果発表、「食」の祭典等

パートナーシップ事業 「一市町村一國フレンドシップ関連事業」(愛・地球博記念公園)、「人と自然の共生国際フォーラム」(愛知県産業労働センター)、「武将・環境・産業」観光等



記念行事

●2010年「国際生物多様性の日」・開催半年前記念行事

「国際生物多様性の日」という節目とCOP10開催半年前という時機にあわせ、生物多様性とCOP10の意義を重ねてPRし、多様な主体が自主的に行動を展開していく契機とします。

時期 2010年5月下旬

場所 栄地区(予定)

内容 記念シンポジウム、ステージイベント、ブース展示等



記念行事

COP10開催時の取組(2010年10月)

国際会議の開催・支援

生物多様性に関わるさまざまな課題や問題に対処するためには、地域における自治体の取組や次世代を担う子ども・青年の行動が重要です。このため、COP10開催にあわせ、世界各国の自治体における課題や取組を話し合う生物多様性国際自治体会議を開催するとともに、子ども、青年といった次世代の若者が集い、話し合う会議の開催を支援します。会議では、この地域の特色ある取組を情報発信していきます。

●生物多様性国際自治体会議

「都市と生物多様性」の重要性を確認し、地域における生物多様性保全に向けた自治体の役割や行動について、世界の都市間の情報共有・経験交流を深めることが大切です。このため、COP10において「生物多様性のための地域行動」の一層の拡大の必要性を世界各国に呼びかける国際会議を開催します。

時期 2010年10月 (予定)

場所 名古屋市内会議場 (予定)

概要 世界及び国内の自治体等による国際自治体会議



COP9での国際市長会議

●子ども環境会議

次世代を担う子どもたちが生物多様性や環境問題に関心を持ち、行動に移すことが大切です。このため、環境に関心が深い国内外の子どもたちの交流を通じて、環境問題に関する次世代のリーダー育成を目指す会議の開催を支援します。

また、検討結果を宣言としてとりまとめ、COP10の場で提言することを目指します。

時期 2010年8月又は10月

場所 名古屋市内会議場

概要 世界の子どもによる環境会議



子ども環境サミット2005

●世界ユース環境会議

次世代を担う青年たちの生物多様性や環境保全への意識を醸成し、活動へつなげていくことが大切です。このため、国内外の青年が集まり、生物多様性の保全に向けた活動や将来への期待について議論・発信する会議の開催を支援します。

また、会議の成果を宣言としてとりまとめ、COP10の場で提言することで国際的な環境貢献を目指します。

時期 2010年8月又は10月

場所 愛知県内会議場

概要 世界の青年による環境会議



COP9における子ども・青年によるパフォーマンス

多様な主体の取組への支援・協力

企業、学術、NGO/NPOといった多様な主体が実施する生物多様性に関する取組や、研究成果は、生物多様性を基軸とした地域づくりを図るために重要です。このため、これらの多様な主体がCOP10にあわせて行う以下の取組について支援・協力していきます。

●企業への支援・協力

生物多様性の保全や生物資源の持続可能な利用を図るためには、企業の資源調達から商品販売・廃棄に至るあらゆる分野に生物多様性に配慮した活動が求められます。そのため、特にモノづくりが盛んなこの地域の企業の以下の取組について支援・協力していきます。

- 地元が中心となって行う環境技術展や企業シンポジウム等の開催
- サイドイベント等のCOP10での取組発表
- 締約国関係者等との交流
- 開催される企業会議、イベントの広報

●学術への支援・協力

生物多様性の保全等を図るためには、学術面からの広範かつ主体的な調査・研究成果が重要です。このため、以下の取組について支援・協力していきます。

- 地元の大学、学会等の関係者が中心となって行う学術に関するシンポジウム等の開催
- サイドイベント等のCOP10での取組発表
- 締約国関係者等との交流
- 開催される学術会議、イベントの広報

●NGO/NPOへの支援・協力

生物多様性の保全等を図るためには、地域においてそれぞれの分野で活動しているNGO/NPOの課題や成果を、今後の環境施策に反映させていくことが期待されています。このため、以下の取組について支援・協力していきます。

- NGO/NPOが中心となって開催する国際市民イベント
- COP10会期中のNGO/NPOニュースの発行
- 国内外NGO/NPOとの交流
- 開催される会議、イベントの広報

●成果発信への支援

多様な主体が主体的、効果的に成果を発信していく機会を設けることが重要です。このため、以下の取組を支援していきます。

- 多様な主体が、締約国政府関係者等に向けて発信する活動発表の場(国際会議場展示エリア、白鳥地区等)
- COP10開催後に、多様な主体がCOPにおける成果や、今後のメッセージを発信するポストCOP10シンポジウムの開催

広域的な連携

パートナーシップ事業の展開

COP10開催と生物多様性の保全等に向けた取組を、多様な主体との連携により盛り上げるため、COP10パートナーシップ事業を募集しています。支援実行委員会のパートナーとして、COP10開催をともに盛り上げていただける事業、また、生物多様性の保全や、自然と共生する持続可能な社会を目指す事業など、幅広い方々との事業連携を進めます。

(事業事例) ・生物多様性に関する講演会、シンポジウム ・自然観察会や体験学習等のイベント ・自然再生CSR活動 等



さまざまな主体と連携し、 交流を深め、広げます。

生物多様性の問題は、他の国や地域との広い連携のもと取り組まなければなりません。
COP10開催にあわせて、県民・市民、NGO/NPO、大学・研究機関、企業など国内外の多様な主体が、
生物多様性に関する課題や取組を持ち寄り、議論し、交流する機会を創出します。

発表・交流の機会の創出

名古屋国際会議場に隣接する白鳥地区、愛・地球博記念公園、栄地区を会場とし、国際的な取組を発表・交流する場や、一般の県民・市民の方々も楽しく学び、参加・交流できる場を設けます。この地域で活動を展開しているの方々にとって、他の地域や世界での取組を知り、交流できる機会としていきます。

●白鳥地区 生物多様性のために“集う”場

COP10本会議場の隣接地で、生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会を開催します。

時期 2010年10月(COP10開催期間中)

場所 名古屋国際会議場周辺、白鳥公園、名古屋学院大学、熱田神宮公園(予定)

概要 国内外の政府・自治体・国際機関、NGO/NPO、大学、企業などが生物多様性にかかわるプロジェクトやコンセプト、課題やアイデアを持ち寄り、ブース展示等により、発表・交流をします。COP10の会議参加者はもちろん、一般来場者の方も入場できます。



COP9展示会



会議会場

白鳥地区会場



COP9展示会

名古屋国際会議場





COP9における地元の子ども・ユースによる自然を賛美するパフォーマンス

●愛・地球博記念公園

生物多様性を体感し、“行動”する場

「自然の叡智」をテーマに2005年に開催された「愛・地球博」の理念を継承した記念公園で、自然ゆたかな環境の中、県民・市民（子どもを含む）、NGO/NPO等が楽しみながら交流し、生物多様性の大切さを体験・体感していただきます。

時期 2010年10月(COP10開催期間中)

場所 愛・地球博記念公園

概要 「地球市民交流センター」を中心として、交流・体験をキーワードとする催しを行います。交流型の催しとして、里山をテーマとした市町村、NGO/NPO等の特色ある取組の展示や発表などを行います。体験型の催しとして、里山の生き物を素材とした展示や、山の幸・海の幸を味わう食の祭典などを行います。またCOP10参加者に呼びかけ、一般入園者とともに自然を満喫しながら公園内を走る「ナチュラスロン」も計画しています。



愛・地球博記念公園

●栄地区

生物多様性とCOP10を“発信”する場

栄オアシス21を中心に、栄地区をCOP10と生物多様性の情報発信拠点(情報ステーション)としていきます。県民・市民に親しまれているこの地区で、COP10に関する情報を随時発信し、生物多様性とCOP10を身近なものとして感じられるような場としていきます。

時期 2010年10月(COP10開催期間中)

場所 栄オアシス21(久屋大通公園)

概要 情報ステーション、ステージエリア、ブース展示エリアなどで構成し、COP10と生物多様性を発信していきます。



栄地区(オアシス21)



2010年10月、愛知・名古屋を中心とするこの地域でCOP10と、関連する多彩な取組が展開されます。

COP本体会議

名古屋国際会議場

<生物多様性条約第10回締約国会議>

10/11 ~ 10/15

10/18

~

10/29

COP-MOP5

(カルタヘナ議定書締約国会合)

- ・全体会議
- ・作業部会

COP10

(生物多様性条約締約国会議)

- ・全体会議
- ・作業部会

10/27~29

閣僚級会合

サイドイベント

- ・遺伝子組換え作物等に関する発表・報告会議

サイドイベント

- ・里山、干潟、侵略的外来生物、気候変動等に関する発表・報告会議

- ・エクスカージョン
- ・地元情報の提供
- ・ボランティアによるおもてなし

成果をCOP10にあわせて発信

関連する会議・取組

締約国会議の枠組みを超え、各主体が共通の課題を持ち寄り、議論し、その成果をCOP10にあわせて発信します。

生物多様性 国際自治体会議

都市と生物多様性の重要性を確認し、情報共有と交流を深め、「生物多様性のための地域行動」の一層の拡大を世界に呼びかける国際会議を開催します。

時期：COP10開催期間中の3日間

企業の取組

生物多様性保全と持続可能な利用に向けた企業活動の課題と取組に関する情報発信と交流が図られます。また、メッセナゴヤ[※]等の開催を通じて、地元企業の先進的な取組を発信します。

※メッセナゴヤ(環境技術展)



連携・交流

COP10に合わせ開催する多様な主体の発表・交流事業

栄地区(栄オアシス21)

生物多様性とCOP10を“発信”する場

栄オアシス21を中心に、栄地区をCOP10と生物多様性の情報発信拠点(情報ステーション)としていきます。

- ・情報ステーション
- ・ブース展示 等

愛・地球博記念公園

生物多様性を体感し、“行動”する場

自然ゆたかな環境の中、大人から子どもまで幅広い県民・市民の参加のもと、生物多様性をテーマに楽しみながら交流し体験していただきます。

- ・里山等をテーマとした市町村、NGO/NPO等の発表・展示
- ・食の祭典
- ・ナチュラスロン 等

白鳥地区

生物多様性のために“集う”場

COP10本会議場の隣接地で、生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会を開催します。

- ・各国政府、自治体、国際機関、NGO/NPO、大学、企業等のブース展示 等

学術の取組

この地域を中心としたさまざまな学術面からの研究成果の発信が行われます。また、日本や世界の森林、里山、干潟等の生態系や生物多様性に関する最新の研究の情報発信や議論、交流が図られます。

NGO/NPOの取組

生物多様性の保全や、持続可能な利用などに積極的に取り組むNGO/NPOが、COP10開催にあわせて、さまざまな議論や交流を図り、成果の発信や提言を行います。

子ども・ユース環境会議

次世代を担う子ども・青年たちが、生物多様性への意識を育み、子ども・青年から地球未来への期待を発信します。

時期:2010年夏休み期間や、COP10開催期間中(予定)



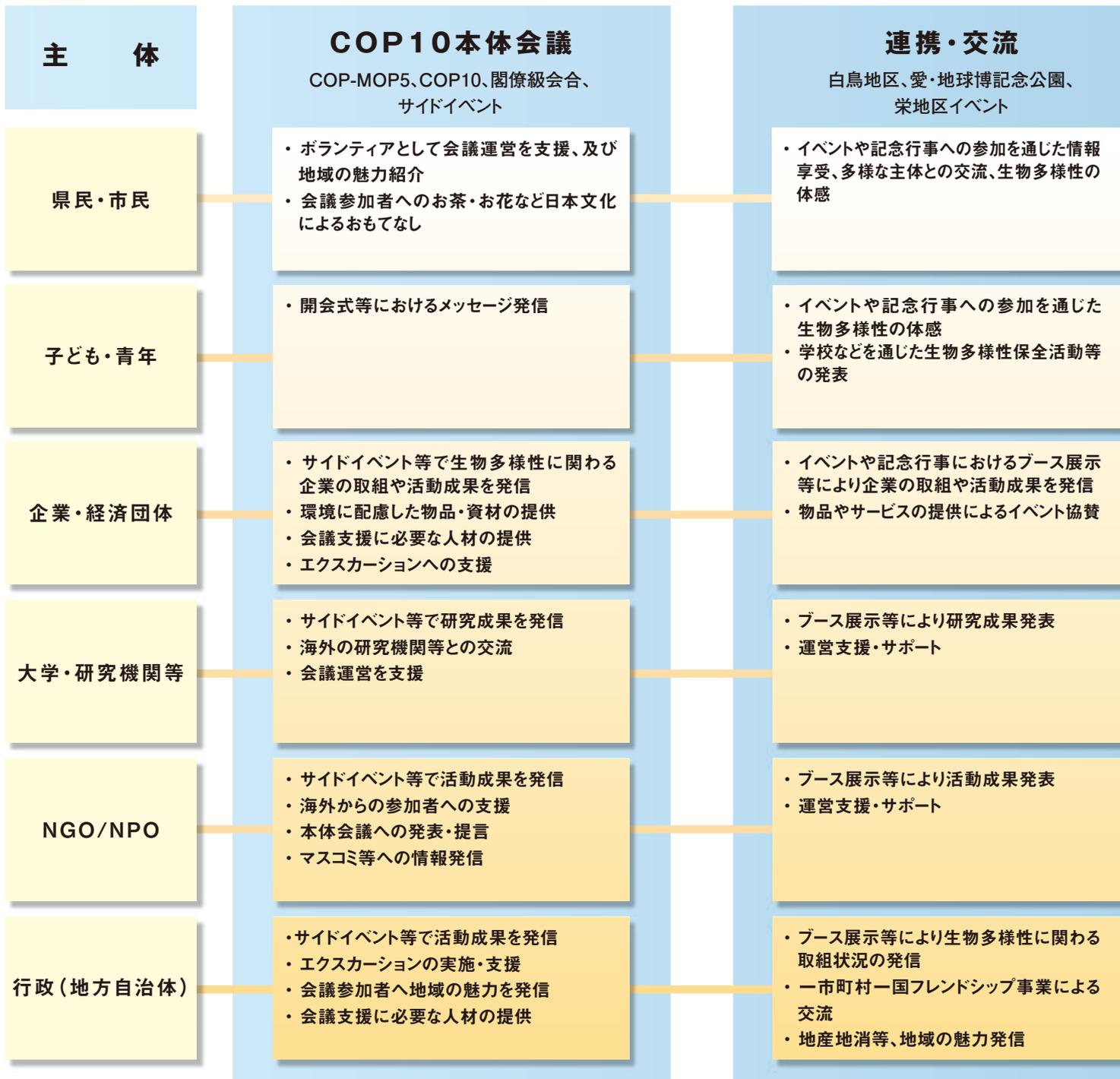
多様な主体の参加・支援が、COP10を成功へと導きます。

COP10は、締約国が生物多様性の保全に向けて、国際的な枠組みを決定する国際会議です。

しかし、会議の決議内容はもとより、多くの県民・市民、学術、企業、NGO/NPOの方々が生物多様性をそれぞれの共通の課題と認識し、将来にわたって継続的に行動や活動ができてこそ、会議の成功といえるものと考えます。

そうした意味で、多様な主体の方々にCOP10や関連事業に支援と参加をいただくことで、

地球上の多様ないのちを守ることを目的とするこの国際会議を、真の成功へと導いていきたいと考えます。



(注) COP10本体会議へは、生物多様性条約事務局に事前申請し、登録が認められた方が参加できます。



海上の森

関連会議

企業、学術、NGO／NPOが主催する会議等

- ・ 市民向けシンポジウムへの参加による生物多様性への関心の深化
- ・ 子ども・ユース会議への参加
- ・ 会議を通じた生物多様性への意識の醸成
- ・ 子ども・青年の視点からの未来への期待の提言
- ・ 環境技術展、企業シンポジウム等の開催、出展・参加
- ・ 企業からの提言
- ・ 学術に関するシンポジウム等の開催、参加
- ・ 学術からの提言
- ・ NGO/NPO国際市民イベント等の開催・参加
- ・ NGO/NPOからの提言
- ・ 生物多様性国際自治体会議への参加、情報発信
- ・ 自治体からの提言

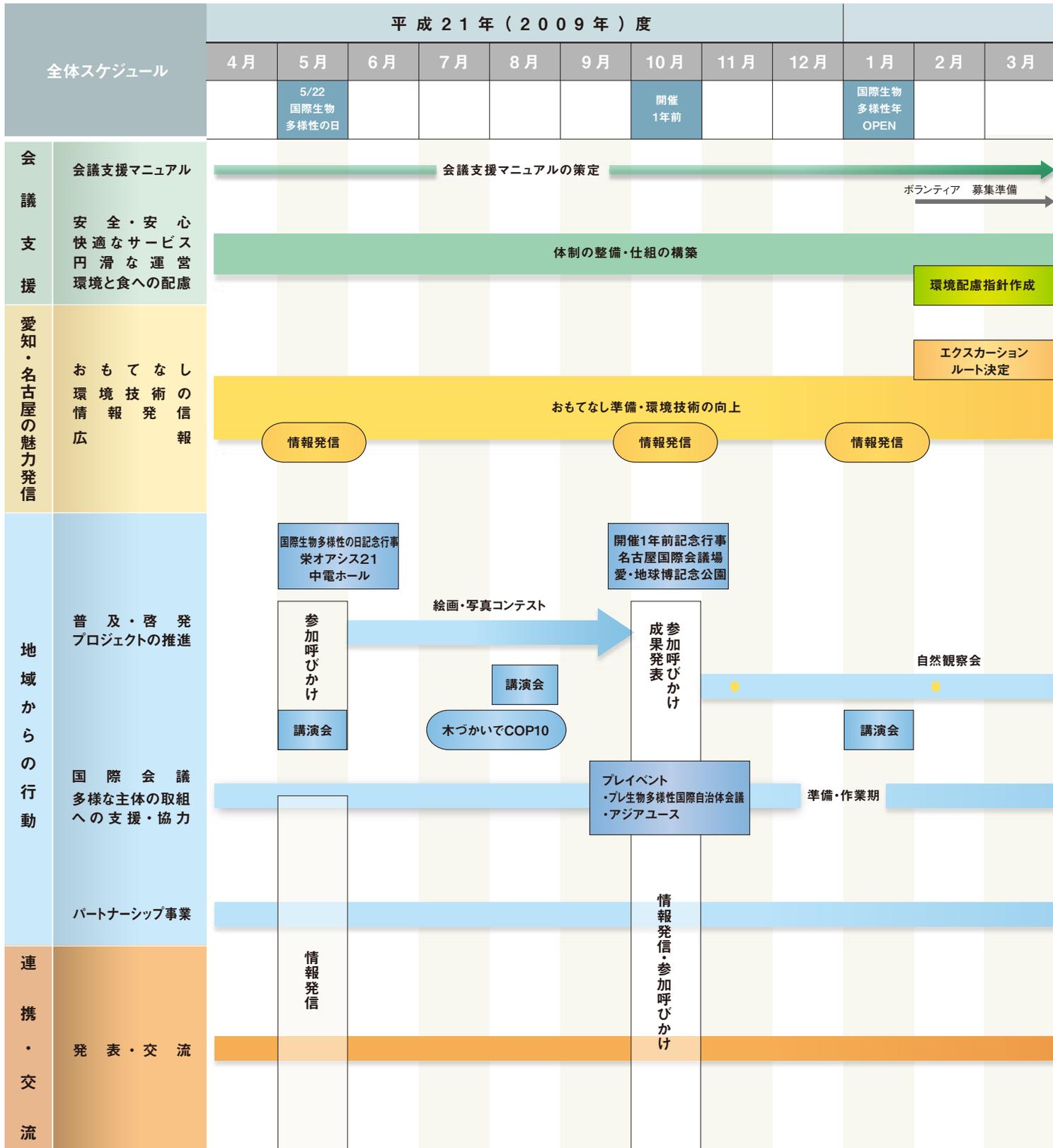
将来へつなげる行動

- ・ 生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用に向けた商品の購入や、地域の自然環境活動への参加などの具体的な行動の展開
- ・ 自然環境活動への参加などの具体的な行動の展開
- ・ 会議参加者間の国際ネットワークの形成
- ・ 生物多様性の保全等を企業活動に定着
- ・ ものづくりと生物多様性の両立
- ・ 企業間の国際ネットワークの形成
- ・ 生物多様性の保全等に関する研究情報の集積、発信
- ・ 学術間の国際ネットワークの形成
- ・ 地域の自然環境活動の定着・発展
- ・ NGO/NPO間の国際ネットワークの形成
- ・ 生物多様性を機軸とした地域づくり
- ・ 自治体間の国際ネットワークの形成

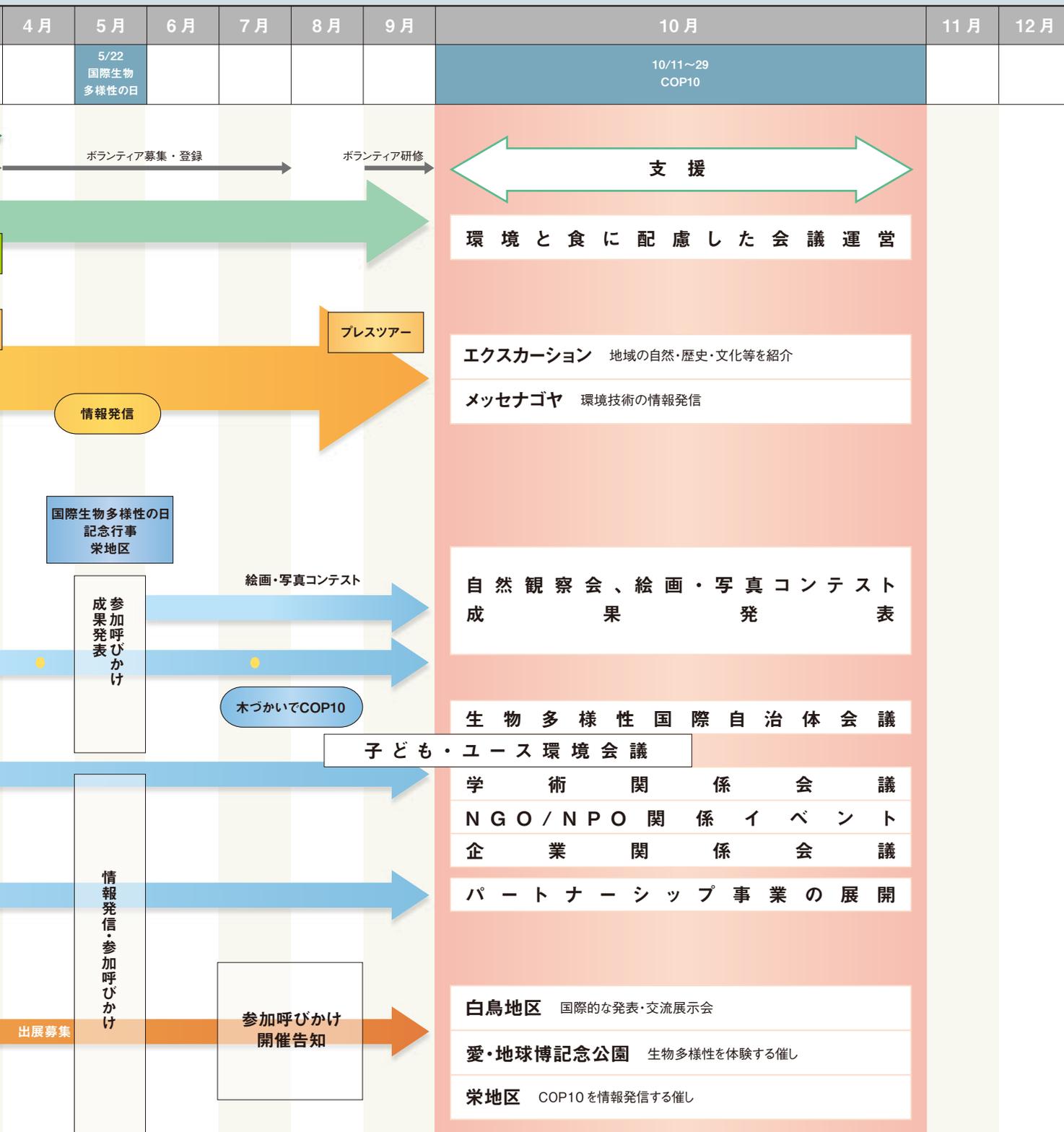


COP10開催に向けたロードマップ

2010年10月COP10に向け、多様な主体の参画と連携で、愛知・名古屋の力を結集します。



平成22年(2010年)度





生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

名称

生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

設立時期

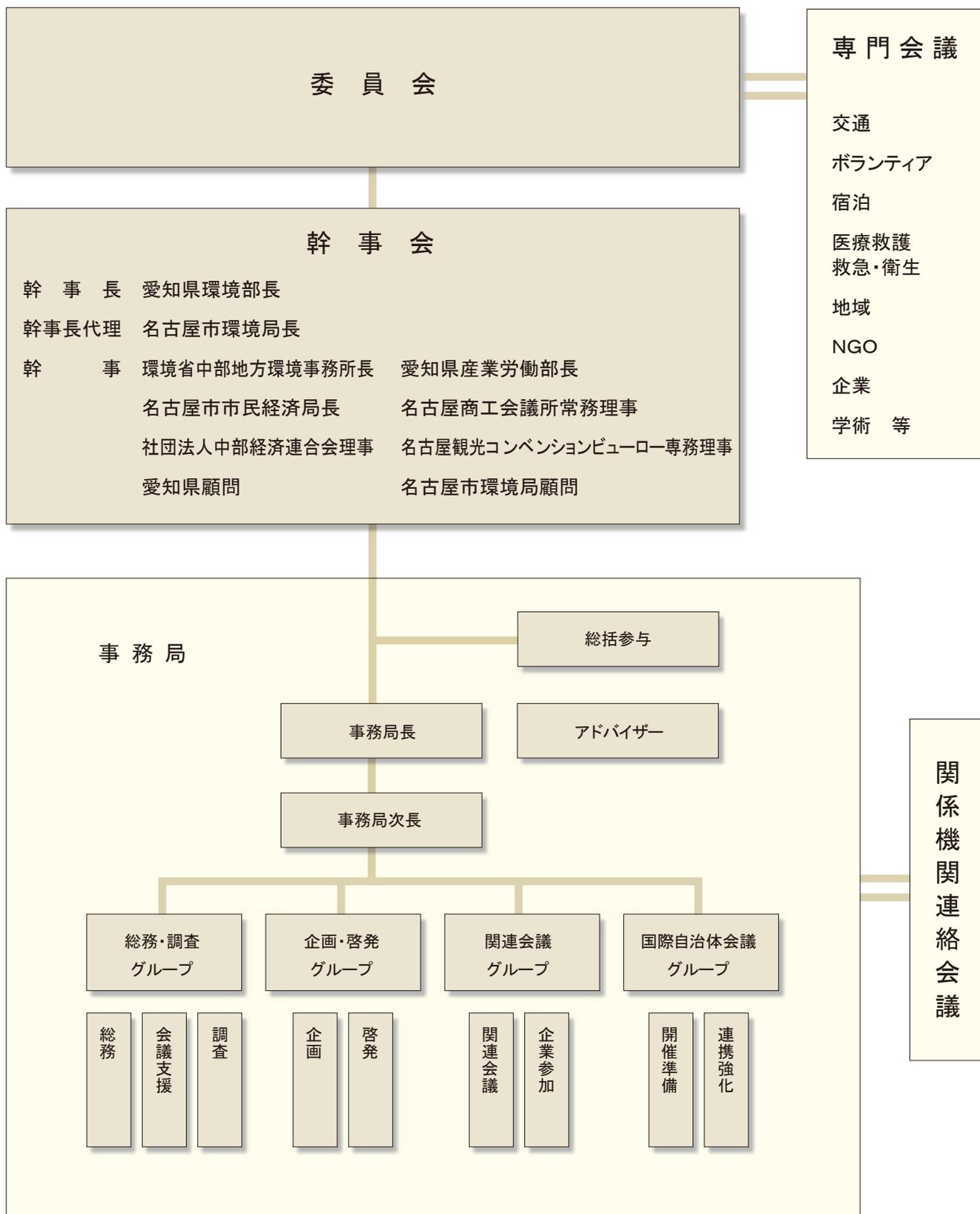
2008年9月2日

設立目的

2010年10月に開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」の開催に向け、主催者である生物多様性条約事務局および日本政府との協議のもと、開催地として万全の体制で会議の開催と運営を支援するとともに、COP10を契機に、多様な主体と相互に学びながら交流と議論を行い、国際社会の一員として持続可能な社会づくりと、生物多様性に配慮する自然との共生に向けた地域づくりの促進に貢献することを目的とする。

委員会

会 長	愛知県知事	顧 問	愛知県議会議長
会長代行	名古屋市長		名古屋市会議長
副 会 長	名古屋商工会議所会頭	参 与	経済産業省
	社団法人中部経済連合会会長		国土交通省
委 員	外務省地球規模課題審議官		中部圏知事会議構成県
	農林水産省技術統括審議官		愛知学長懇話会
	環境省自然環境局長		中部ESD拠点協議会
	県市長会会長		日本経済団体連合会自然保護協議会
	県町村会会長		国際自然保護連合日本委員会
	愛知県副知事		イクレイ—持続可能性を目指す自治体協議会日本事務所
	名古屋市副市長		
	名古屋商工会議所専務理事		
	社団法人中部経済連合会専務理事		
監 事	監査法人トーマツ常勤相談役		
	財団法人愛知県国際交流協会常任理事		



地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

<http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/>



Aichi-Nagoya COP10 CBD Promotion Committee